

生成AIが変える意匠調査と類似性判定の未来：技術、実装、そして法的課題

意匠権保護のグローバルな潮流、AIによる効率化と技術的・法的境界線

グローバルな意匠出願の激増と現状

年間意匠出願数

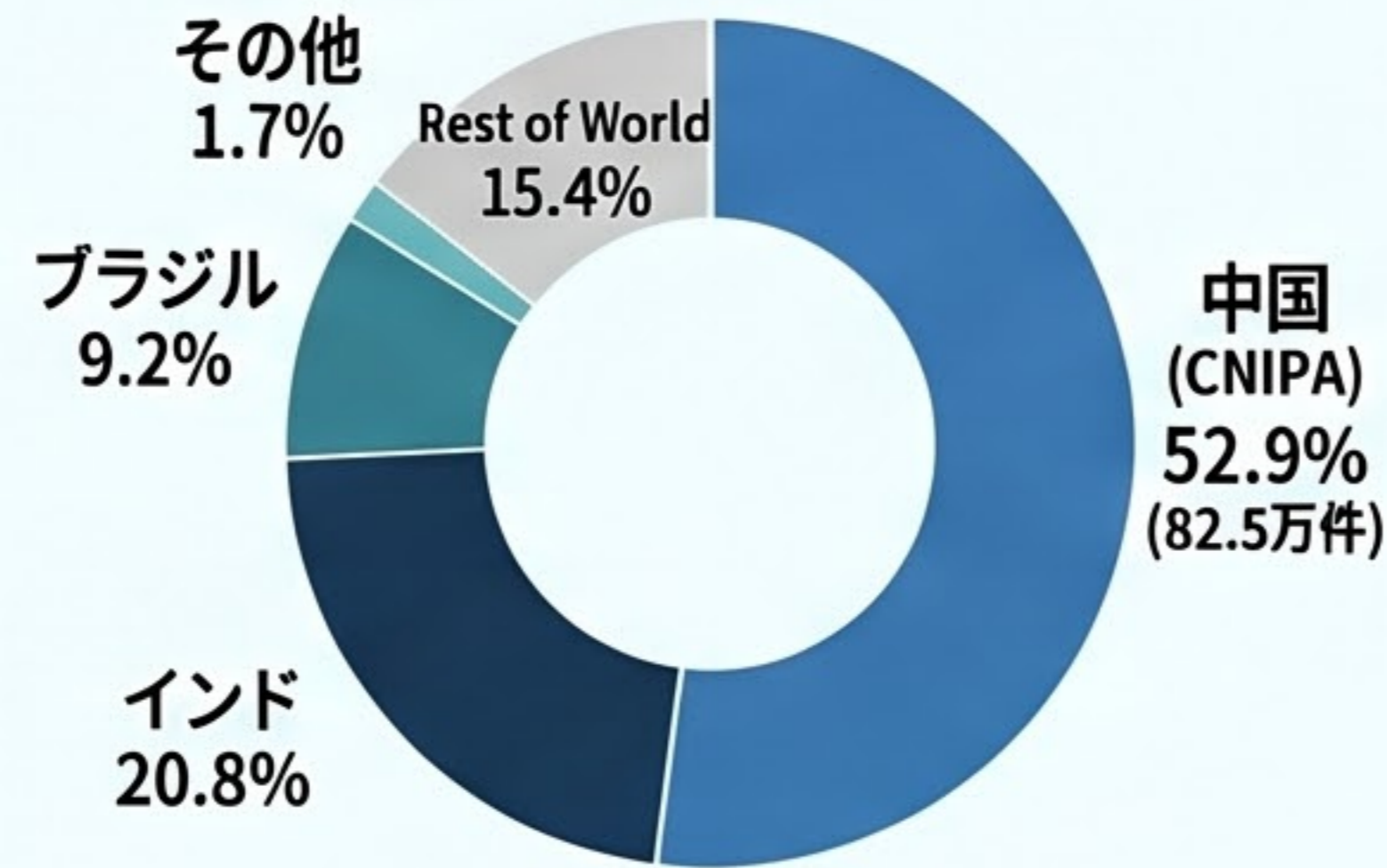


従来の「キーワード検索」の限界

視覚的美感の言語化困難は 意匠を漏れや検索しないから…

- 視覚的美感の言語化困難
- 検索漏れ
- 大量のノイズ (偏囷性)

世界の出願シェア (2024年)



主要機関・民間プラットフォームの実装状況

公的機関のAIツール



USPTO「DesignVision」:
世界80+登録簿から
画像類似度検索。
審査官の「拡張」ツール



WIPO・ID5:
国際協調による
AI統合トレンド

主要な民間知財データベースのAI機能



NLpatent 完全な文章による構文理解、独自の類似モデル、積念的間違位によるランク付け



PatSnap AI検索、NLP、カスタムモデル、1億1500万件以上

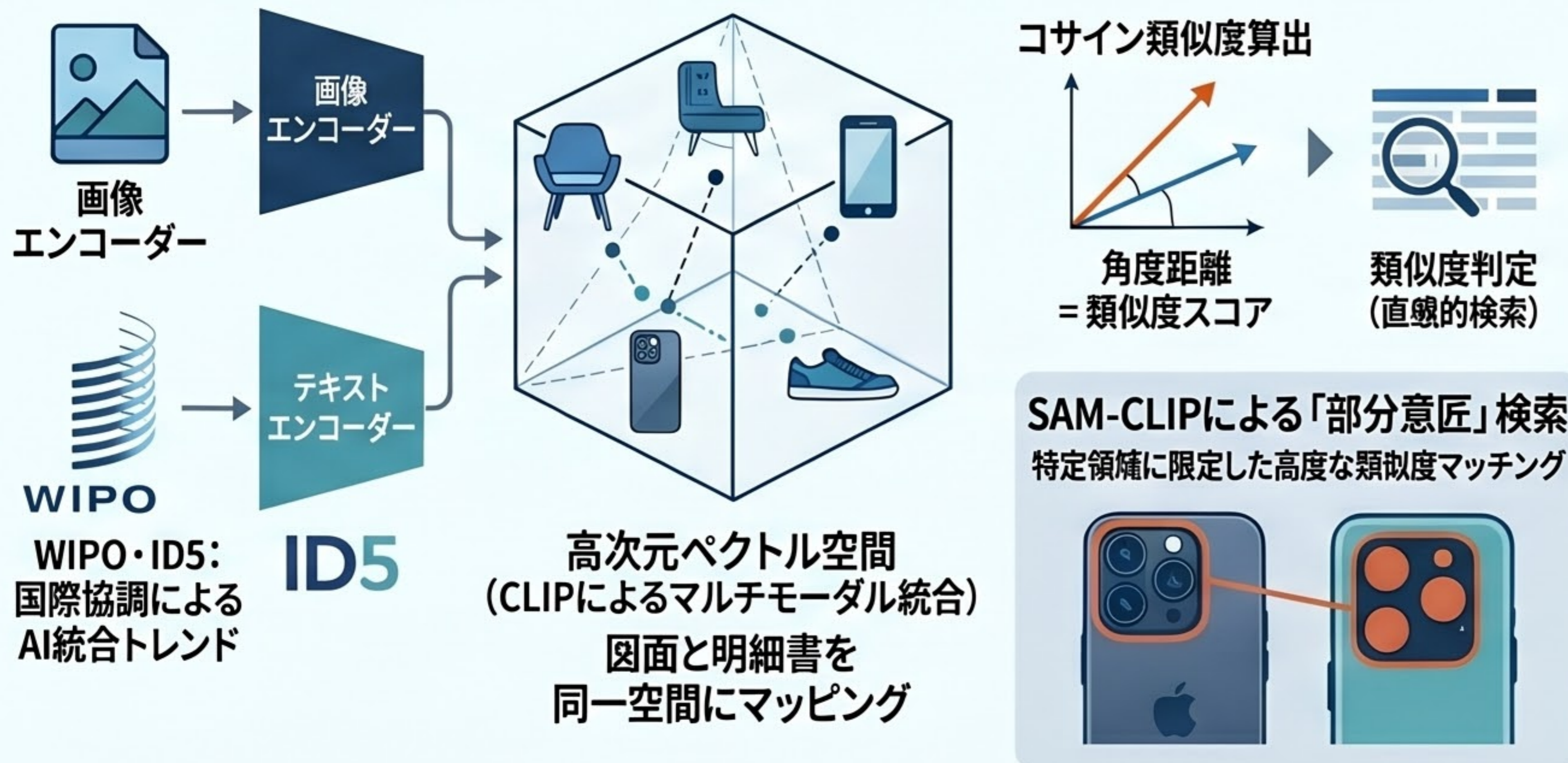


Lens.org 基本的なセマンティック検索、クラスタリング、1億4000万件以上



Orbit Intelligence セマンティック検索、1億3000万件以上

AI検索を駆動する技術メカニズム



法的境界線と実務上のリスク (日本法)

AI学習段階 (OK/非侵害)

- 原則として意匠権侵害にならない
- 機械学習用データ利用は「意匠の実施」に非該当

セマンティック・ギャップ (技術と法の乖離)

AI (ピクセルレベルの数学的類似) 法 (機能的形状を除外した創作的要部)

生成・利用段階 (注意/侵害リスク)

- 意匠権侵害に「依拠性」は不要 (偶然似ても侵害成立)
- 高度なクリアランス調査が必須

機密保持と新規性喪失のリスク

未公開画面の入力は 情報漏洩・自ら新規性破壊

結論: AIは「代替」ではなく「補完」



最終判断は人間。AIによる広範な網羅と人間による法的フィルタリングのハイブリッド・プロセスが標準に